

# 重症1478人過去最多

首都圏や沖縄病床逼迫状況

厚生労働省は13日、国内の新型コロナウイルス感染症の重症者が12日時点では1478人になったと発表した。春の「第4波」のピークで記録した1413人を上回り、過去最多を更新した。東京・神奈川・千葉・埼玉の1都3県や沖縄県などでは重症者の病床がほぼ枯渇しており、必要な医療を受けられずに自宅や療養施設で亡くなる人が増える恐れがある。▼3面=余裕1.5m、28面=大阪宿泊療養40歳以上

## 感染全国2万人超

人工呼吸器か体外式膜式人

人工肺を着けた人に限っており、厚労省の定義に沿うと、11日時点で947人が重症だ。

全国の新規感染者は13日、初めて2万人を超えた。

厚労省は、集中治療室が必要な患者を「重症者」としている。

都道府県別では、大阪府が422人で最も多く、東京都218人、

神奈川県192人、埼玉県107人、沖縄県97人と続く。

愛知県は21人、福岡県は16人となっている。

ただ、東京都は集中治療室に入った人が必ずしも重症ではないなどとして、

1千人増えた1400人に達するまで53日かかり、今回も20日しかかからず、ワクチンの未接種が多い世代で爆発的に感染者が増え、都内の重症者は50代以下が7割を占める。内閣官房のまとめでは、12日時点の重症病床の使用率は東京都で81%、神奈川県で96%。神奈川県で患者の搬送調整に当たる職員は「重症病床の空きは、ほぼない。空いたらすぐ埋まる」という繰り返しと危機感を募らせる。都の入院調整本部には10日、重症者75人がついて依頼があったが、50人はその日のうちに入院

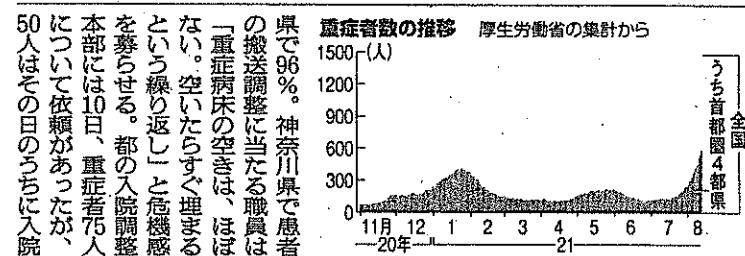
に応じた。首相は自宅療養ナウイルスへの対応で、菅義偉首相は13日、自宅療養患者への連絡態勢を強化する考えを示した。患者が酸素の投与が必要になった場合に対応する「酸素ステーション」を設けて対処するといい、こうした方針を関係閣僚に指示したという。

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会は12日、感染拡大が深刻な東京が始まる直前の5割まで減らす必要があるとの緊急提言を公表した。首相は「提言を受け、関係団体と連携して、商業施設などの人流の抑制に取り組んでいきた

い」と説明。お盆休みを迎える、「帰省や旅行を極力避け、不要不急の外出をできるだけ控えてもらいたい」と呼びかけた。(小野太郎)

うち首都圏4都県

全国



## 「酸素ステーション」整備 首相表明 商業施設「人出を抑制」

先が見つかなかった。千葉県の熊谷俊人知事が、なかなか伝わらないと話した。県内では4割ほど空いていることになつてゐる重症病床は、入院中は見えにくい大災害だ

「医療現場の危機的状況が、なかなか伝わらない」と話した。県内では4割ほど空いていることになつた方がいい」と訴えた。

(茂木克樹、池上博子、高畠香子)

の中等症患者が重症化した時に備えたものだといい、「もうすでに満床だと思つた方がいい」と訴えた。

（茂木克樹、池上博子、高畠香子）